

学校名 (生徒数)	東近江市立五個荘中学校 (417名)
--------------	-----------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：東近江市五個荘小幡町227番地

電話番号：0748-48-2451

【研究の目的，研究内容】

(1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

- ・基礎的な四則計算や方程式を解くことはできる。
- ・文字を使った式の表す意味を充分理解していない。
- ・図形の知識があいまいである。
- ・関数の意味がよくわかっていない。
- ・一次関数と、その他の関数の違いについて理解できていない。
- ・文章表現で答える（記述）問題について、正答率が低いとともに、無答の割合が、昨年度に比べると改善はみられるものの、まだまだ大きい。

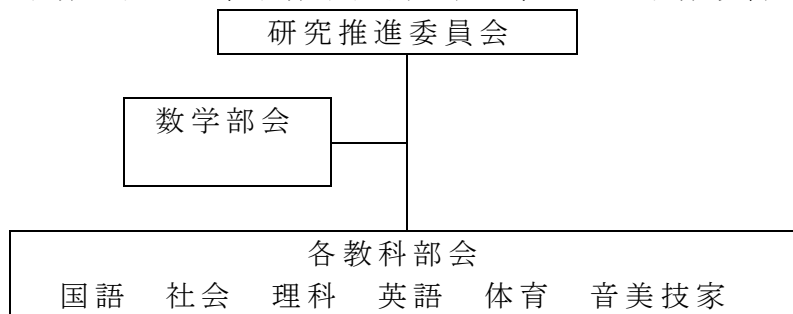
(2) 課題解決に向けた改善策

- ・本時の目標、めあての表示
- ・問題提示の工夫（なぜを問う）
- ・思考過程のわかるノートづくり
- ・グループでの交流 授業では4人を基本とする、場合によってはペア学習
- ・家庭学習の定着 授業の終わりに、宿題や発展課題を出す
- ・日常的な取り組みの継続 全校一斉朝読書（毎日10分間）
- ・表現力の育成 授業での短文、作文を書く機会をふやす
授業の中で、答えだけでなく、理由を説明させたり、文章で書かせたりする場面を多く持つ。
- ・知識・技能を活用する力の育成 学校行事や総合的な学習のまとめ新聞制作

(3) 研究体制

教科部会ごとに、教科の課題を探り、その課題に対しての方策を考え、共通実践できることに取り組み、授業改善を行う。

数学科については、課題に対する方策を考え、授業改善に取り組み、他の教科に先行して研究授業を実施し、授業研究会を行い、さらに授業改善をはかる。



(4) 1年間の主な取組の経過

<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月22日（火）全国学力・学習状況調査の自校採点 ・ 5月 7日（水）校内研究会 今年度の研究について ・ 5月29日（木）学力向上アプローチ事業第1回調査部会 ・ 7月 3日（木）学力向上アプローチ事業第2回調査部会
--

- ・ 7月24日（木）学力向上アプローチ事業第3回調査部会
- ・ 8月12日（火）学力向上アプローチ事業第4回調査部会
- ・ 9月 8日（月）研究指定校訪問 研究内容、方法について
- ・ 10月29日（水）研究指定校訪問 研究授業（3年相似と比）、研究会
- ・ 11月25日（火）研究指定校訪問 研究授業（1年平面図形、2年角と平行線）
研究会（滋賀県教育研究会数学部会東近江市大会）

(5) 具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

各教科での授業改善の具体的な取り組み

本時の目標、めあての表示 問題提示の工夫（なぜを問う）

思考過程のわかるノートづくり

1時間の授業で見開き2ページを使用

日付 本時のめあて（キャッチコピー）

吹き出し（教師が例を示す、わかったことや感じたこと）

他の生徒の発表も記録させる

授業の最後にふりかえり がんばり度ABC、理解度ABCを記録

発見したこと、不思議に思ったことなどを文章で記録

グループでの交流 授業では4人を基本とする、場合によってはペア学習

授業中での発表の場面をつくる 求める方法の説明をさせる場面

家庭学習の定着 授業の終わりに、宿題や発展課題を出す

【研究成果と課題】

(1) 研究成果

思考過程のわかるノートづくりを、数学科で統一することができた。

グループ学習を取り入れることで、相手に自分の考えを伝えたり、人の考えを聞いたりすることができた。また、発表を聞くことで、よく似た考えや別の考え方を知ることができた。こうした一連の流れが、生徒が筋道を立てて考えを表現する力になった。

昨年度の学力・学習状況調査では、記述問題について無答の割合が多いのが課題であったが、今年度は、無答の割合が少なくなり、はじめからあきらめることが少なくなった。

(2) 課題等

授業で問題提示をし、自力解決の時間を持って、教師の説明を待っている生徒が多く、積極的に考えようとする生徒が少ない現状がある。もっと生徒に興味を持たせるような問題提示の工夫をし、生徒がさらに積極的に取り組むようにする必要がある。

グループ学習の場面についても、数学科だけではなく各教科の授業のなかで、きちんと取り入れる必要がある。

また、全体交流の場面で、できるだけ生徒の発表を多く取り入れ、よく似た考えや別の求め方などについて、今以上に気付かせる必要がある。

さらに、ノートについても、板書のみではなく、自分の考えや、全体交流で出たまわりの生徒の意見、考えを記録させ、思考過程のわかるスタイルにさせる指導を充実させる必要がある。

家庭学習の定着のため、授業の終わりに宿題や課題を出している。定期的な点検は行っているが、それだけで生徒の日々の家庭学習の定着に結びつけるのには限界がある。生徒が自主的に家庭学習に取り組める工夫が必要である。